

門前仲町 第3弾

探検隊報告

富岡八幡宮

JSTTの事務局で、「ところで、どこの門前町なの？」という会話から今回の探検がスタートすることになりました。そういえば、門前仲町と言うけど、どうなんですか？さっそくインターネットで調べてみると、「富岡八幡、永代寺、深川不動の門前町として、毎月28日の縁日には多くの露天が並ぶなど盛況を呈しています。」とのこと。そこで、地下鉄大江戸線の門前仲町駅からJSTTの事務所方面へ永代通りを歩いて行くと、左手に深川不動尊の参道がありました。まず、そちらへ行ってみると、いろんなお店と出店がある中、右側の角に永代寺があって、その横道を歩いていくと富岡八幡宮の境内にたどり着きました。

取材した日も縁日の日だったらしく、骨董品や衣料、食べ物などいろんなお店が商店街から参道、境内まで所狭しと並んでいました。

池波正太郎などの江戸時代を舞台とした小説で「深川の八幡様にお参りに行こう」というと、富岡八幡宮と思って良いくらいで、江戸時代（1624年寛永元年）に出来た東京最大の八幡様です。この八幡様の境内には、いろんな石碑や銅像などがあるらしく、今回はここを中心にご紹介しましょう。

今年は3年に一度の例大祭の年で、8月17日（日）には早朝から56基の御神輿が町内を練り歩くようですが、大き過ぎて担げない日本一の御神輿が参道左手に展示してありました。総重量4.5トン、使用されている1カラット以上のダイヤも合計25カラット、屋根は純金24と豪華なものです。（ある資料に1807年・江戸時代のお祭で見物人の重さに耐えかねて落ちた永代橋という表現があったため、永代通りを反対側に歩いて隅田川にかかる現代の永代橋の写真も撮ってきましたよ。）

御神輿の横には、伊能忠敬像がありました。日本地図を歩いて作ったのはご存知のとおりですが、深川に住んでいたため、測量に出かけるときは必ず八幡様にお参りして出かけたということから境内に銅像が設置されたそうです。伊能忠敬像と参道を挟んで立っているのが大関の石碑と巨人力士身長碑などで、横綱の石碑はどこかなと探すと、ずーと離れた本殿右奥に、第12代横綱陣幕久五郎を発起人として明治33年に建立されたという横綱に相応しい立派な石碑群がありました。参道から離れているので、そのつもりで来ないと見過ごしてしまいがちですが、一見の価値ありです。江戸時代はこの境内で勧進相撲が行われていて、今の大相撲に繋がっているのだそうですよ。

さて、次はどこを探検しようかなー。深川に住んだ俳聖松尾芭蕉に縁のあるところでも散歩してみましようか？



富岡八幡宮境内（縁日）



日本一の御神輿



永代橋



横綱の石碑



伊能忠敬像

富岡八幡宮 平成20年例大祭

JSTTが移転した門前仲町の富岡八幡宮は、今年は3年に一度の本祭りの年でした。東京の夏祭りは、町々に催されていますが、豪壮な神輿が勢揃いする祭りといえば、深川、富岡八幡宮の例大祭、それも3年ぶりに行われる本祭りの神輿連合渡御(とぎょ)が最高といわれています。

午前7時半、威勢のいい花火の合図が鳴り響くと、各町の56基の神輿の連合渡御のスタートです。毎回くじ引きによって並び順「渡御駒番」が決まり、相撲番付のごとく番付も発表されるのが恒例だそうで、今年が一番札は「三好3, 4」が引き当て、殿(56番)は「深濱」でした。

また、今年は奥州平泉の神輿が参加することも話題のひとつになっていました。これは平成7年、平泉900年を祝う平泉祭に深川の神輿を披露したのが縁で、平泉の水掛け神輿が名物行事になりました。そして今回連合渡御に初めて参加することになったそうです。

さて、協会事務所は富岡八幡宮にほど近く、スタート直後の神輿が次々に通過していきます。汐見橋の上が最高のシャッターポイントです。トラックの荷台に溜めた水をバケツで掛ける水掛け神輿を目の当りに見ることができました。

幸か不幸か、この日は連日の猛暑日が一段落し、最高気温25度という涼しい日となりました。我々見学者にとっては涼しくて絶好の見学日和でしたが、水を掛けたれた担ぎ手にとっては少々寒さが堪えたようにも見えました。

「わっしょい、わっしょい」の威勢の良い掛け声に興奮しながら、粋なハッピー姿の女性に目をひきつけられ、飽きることなく2時間が過ぎていき、最後の神輿が事務所前を通過していきました。

我々はここで一息入れて(腹ごしらえ?)いますが、神輿のほうは深川界限を一周するわけで、8キロの渡御です。

12時に神輿の先頭は永代橋に戻ってきます。永代橋は200年前の祭りにおいて、大勢の人が押しかけ、橋が落ち、1500人もの人が亡くなったといわれています。今は橋が落ちることはありませんが、クライマックスとなる、永代出張所前で消防団による滝のような放水が見ものです。もう、この頃は寒いなんていってられないほどの熱気と興奮で最高潮です。一緒にいた友人はすっかり興奮して神輿に近づき、水を浴びて踊っています。

8キロの渡御を終えた神輿は、八幡宮鳥居前でお祓いされた御神水が用意され、神職による水掛けの儀が連合渡御を締めくくります。神輿は各町に戻り打ち上げとなるのですが、担ぎ手たちはお疲れ様ですが、明日の仕事には差し支えることになるでしょう。

